

いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

三陸復興

第47号
(平成25年9月1日号)
岩手県

復興に向けて歩んでいる岩手の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思ひます。

9月に入り、秋の気配も感じられる中、復興に向けて歩み続ける被災地。そんな岩手の今を紹介します。

大槌町初となる災害公営住宅の内覧会開催

大槌町

8月17日(土)、18日(日)の両日、東日本大震災津波で家を失った方々を対象とした災害公営住宅の内覧会が開かれました。

内覧会が行われたのは、8月末に入居が予定されている大槌町の大ヶ口(おがくち)地区と吉里吉里(きりきり)地区の2箇所。大槌町で初となる災害公営住宅です。

大ヶ口地区の災害公営住宅は、木造長屋平屋建てと2階建ての計70戸。間取りは、1DK~4DKに加え、車いす対応の2DKタイプがあります。地元の木材を多く使用し、木のぬくもりが感じられる和風の住宅となっており、敷地内には、住民の交流が図れるようにコミュニティ広場が配置されています。

また、吉里吉里地区の災害公営住宅は、鉄筋コンクリート造5階建ての集合型住宅で、計34戸。間取りは、1DK~3DKに加え、車いす対応の1DK及び2DKのタイプ

があります。

内覧会には両日ともに300名以上が来場。訪れた人たちは、部屋を見学しながら、入居後の暮らしへの想いを巡らせていました。

平成25年10月には、新たに大槌町屋敷前地区に木造長屋タイプ21戸も完成予定。甚大な被害を受けた大槌町でも、復興まちづくりが一步步進んでいます。



大ヶ口地区の災害公営住宅



吉里吉里地区の災害公営住宅

SHIBUYA 109 KAMAISHI

が期間限定でオープン

釜石市

8月16日(金)~18日(日)、10代、20代の若い女性を中心に人気のある、東京・渋谷のファッションビル「SHIBUYA109」の期間限定ショップ「SHIBUYA 109 KAMAISHI」が、釜石市の「シープラザ釜石」内にオープンしました。

「SHIBUYA 109 KAMAISHI」には、「SHIBUYA109」で人気のブランド13店舗が出店。実際に渋谷で働いている店員たち自らが接客にあたる中、市内外から訪れた

多くの中高生や家族連れが、品定めをしながら買い物を楽しみました。

この企画の発端は、釜石市に住む女子中学生・打越佳奈さん(15)が「SHIBUYA109」の運営会社社長宛てに書いた1通の手紙。打越さんが手紙に込めた「釜石市が復興に向け前進していく中で、洋服のデザインや販売などの楽しいイベントを企画して、釜石に元気を取り戻したい」という思いが届き、見事実現したものです。

会場では「SHIBUYA109」のショップと地元女子中学生が共同開発した洋服やバッグも販売され、人気を集めていました。

最終日の18日(日)には、会場に設けられた「シープラザ遊 特設 RUNWAY」で、ファッション雑誌「Popteen」の人気モデル5名と地元女子中学生によるファッションショーも開催。モデルが登場するごとに、会場は歓声と大きな拍手に包まれていました。



ファッションショーに出演する打越佳奈さん(中央)



コラボ商品のバッグ

いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!

登録無料



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員(個人)と応援団(法人及び団体)の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

平成 25 年 4 月 3 日から盛駅～吉浜駅で運転を再開した三陸鉄道南リアス線では、11 月 30 日（土）までの水、木、土曜日限定で、「ランチ列車（盛駅発 11：30、吉浜駅発 12：27）」と、「スイーツ列車（盛駅発 13：30、吉浜駅発 14：35）」を運行しています。

これは、南リアス線の一部区間開通に伴い行われているもので、「もっと三鉄に乗って沿線を見てほしい。乗車するお客さんの笑顔が見たい」との思いから、大船渡市のサンドイッチ店「サネン」がランチを提供。

★★★★★★★★ 盛駅～吉浜駅間 ★★

また、「甘いスイーツで笑顔になれる時間を届けたい」との思いから、盛岡市の洋菓子店「花月堂」がスイーツを提供しています。

三陸鉄道が、平成 26 年春までに南リアス線の不通区間である吉浜駅～釜石駅間の復旧を目指す中、乗客は名店の味を楽しみながら、車窓や、復旧の状況を解説する車内放送から、沿岸地域の復興状況を確認している様子でした。



ランチ列車を楽しむ家族



車窓から沿岸の復興状況を望む



「ランチ列車」のランチ

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。
第 4 回目は、若田 謙一さんを紹介します。

PROFILE

静岡県三島市出身。

イギリスで経済学を学んだ後、東京のコンサルティング会社に勤務。岩手県が公募する、三陸の復興と地域活性化の業務を目的とした「いわて復興応援隊」に応募し、2013 年 6 月より、山田町の商店街再興にあたっての計画づくりや組織づくり、まちづくりに取り組んでいる。

社会を変革できる立場で「地域づくり」「まちづくり」を

若田さんは、東京のコンサルティング会社勤務に勤めていた頃は、「お客さんのために」と仕事をしていましたが、社会を変革できる立場で「地域づくり」「まちづくり」に取り組むという思いを持っていました。

未来の さんりく びと

山田町役場水産商工課
若田 謙一
(わかた けんいち) さん



若田さんからのひと言：
町を越え、沿岸を越え、岩手を越え、つながりの中で新たなパワーを！

そんな中、岩手の友人を通じて「いわて復興応援隊」の公募を知り、2013 年 1 月に応募し、6 月から山田町に移り住みました。

地域の人の気持ち、考えていることを大切にしながら進めなければいけない

若田さんは直接の被災者ではないので、実際に被災した方々の気持ちにどこまで近づけるかが日々の悩みとのこと。

「スピードだけを優先して、自分の意見を一方的に押し付けるのではなく、相手の気持ちや考えていることを大切にしながら進めなければならないと思います。東京での経験を活かしながら、地元のみなさんの意見を聞き、人々を巻き込んだまちづくりが重要だと思っています。海と山を併せ持つ山田町の自然を活かし、海が見えて、海や山の幸を楽しめる商店街など、ものと人が行き交う魅力ある山田町にしたいですね」とまちづくりへの熱い想いを語りました。

岩手県の被害状況

平成 25 年 8 月 31 日現在

- ▶ 人的被害 死者：4,672 名 行方不明者：1,145 名
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 25,023 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

平成 25 年 7 月 31 日現在

- ▶ 義援金受付状況 約 178 億 2,988 万円 (86,229 件)
- ▶ 寄付金受付状況 約 165 億 3,804 万円 (6,228 件)
- ▶ いわたの学び希望基金受付状況 約 58 億 7,328 万円 (10,791 件)

※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

お詫びと訂正：8 月 1 日号「砂の芸術祭」の記事にありました、「はまゆり若だんな会」は「はまぎく若だんな会」の誤りでした。訂正し、お詫び申し上げます。

ビジュアル豊富に【いわて復興だより Web】がスタートしました。http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより 第 47 号 平成 25 年 9 月 1 日 企画・発行：岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

いわて復興だより

検索

編集・印刷：シナプス